

当月のS&P MLP 指数の動き

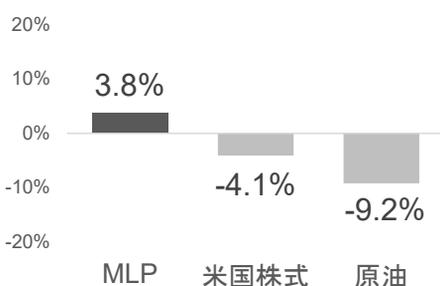
10月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+14%と2か月ぶりの上昇となりました。

月初は、OPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラスにおける減産合意が意識され、原油価格が上昇する中、MLPも上昇基調となりました。その後、景気減速懸念などを受けた原油価格の下落がMLPの上値を重くする場面があったものの、下旬にかけては、米国株式市場において、金融大手の決算などが好感される中、米利上げペースの緩和観測による投資家心理の改善などもあり、MLPは上昇基調となりました。

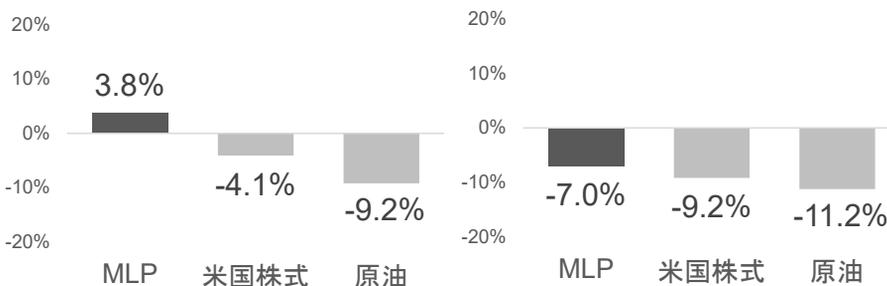
過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

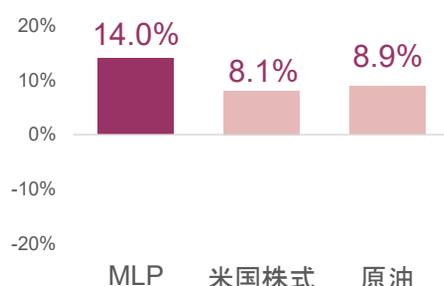
2022年8月



2022年9月



2022年10月



主要指標の動き

MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
	2022/10/31	2022/9/30	2022/7/31	2021/12/31			
S&P MLP 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	6,268.81	5,496.89	5,697.61	4,495.14	14.0%	10.0%	39.5%
プライスリターン	1,399.31	1,236.46	1,299.14	1,071.99	13.2%	7.7%	30.5%
S&P 500種 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	8,218.70	7,603.14	8,730.46	9,986.70	8.1%	-5.9%	-17.7%
プライスリターン	3,871.98	3,585.62	4,130.29	4,766.18	8.0%	-6.3%	-18.8%
S&P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,464.06	1,171.63	1,255.99	868.26	25.0%	16.6%	68.6%
プライスリターン	689.83	552.56	598.74	422.74	24.8%	15.2%	63.2%
S&P 米国 REIT 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,477.37	1,408.04	1,704.14	1,959.66	4.9%	-13.3%	-24.6%
プライスリターン	312.35	298.12	363.82	425.81	4.8%	-14.1%	-26.6%
米国ハイイールド債(ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))							
トータルリターン	1,386.37	1,348.00	1,438.94	1,578.79	2.8%	-3.7%	-12.2%
プライスリターン	64.21	62.77	67.74	76.94	2.3%	-5.2%	-16.5%
米国10年国債利回り							
	4.05%	3.83%	2.65%	1.51%	0.22	1.40	2.54
原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	86.53	79.49	98.62	75.21	8.9%	-12.3%	15.1%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	6.36	6.77	8.23	3.73	-6.1%	-22.8%	70.4%
米ドル(対円)							
	148.71	144.74	133.27	115.08	2.7%	11.6%	29.2%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

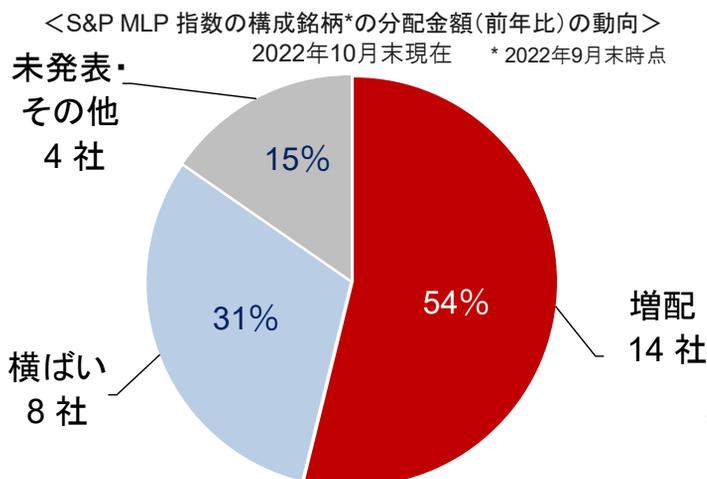
- 3日、英国では、財務相が、9月下旬に打ち出した大規模経済対策の内、高所得層向けの所得税減税を撤回すると発表した。また、OPECプラスが、5日の会合で日量100万バレル以上の原油の減産を検討すると報じられ、原油先物価格が急反発した。
- 5日、OPECプラスが11月に原油を日量200万バレル減産することを決定したほか、米週間統計で原油在庫が予想に反して減少したこともあり、原油先物価格は週末にかけて続伸した。
- 14日、米国で発表されたミシガン大学の調査において、消費者信頼感指数速報値が予想を上回り、4月以来の高い水準となったほか、期待インフレ率が、1年先で5.1%、5～10年先では2.9%と、それぞれ、7ヵ月ぶり、4ヵ月ぶりに高まった。また、サンフランシスコ連銀総裁は、政策金利を4.5～5%に引き上げ、その後はしばらく維持すべきとの見解を示した。米国国債利回りが上昇し、一時、2年債で4.51%台、10年債では4.03%台となった。原油先物価格は世界景気の減速懸念などから反落した。
- 17日、英国の新たな財務相は、減税策のほぼ全ての撤回や、エネルギー価格高騰対策の期間短縮など、経済対策の見直しを発表した。国債利回りは、英国で大幅に低下したほか、ユーロ圏でも、イタリアを中心に低下、さらに、米国でも低下した。
- 21日、FRB(米連邦準備制度理事会)が、12月に利上げペースを緩める可能性を巡り、市場にどのような発信をすべきかを11月のFOMC(連邦公開市場委員会)で議論する公算が大きいと、米経済紙が報じた。これを受け、米国株式市場が大きく反発する中、MLPも上昇した。

今後の注目点

- 2022年7-9月期のMLPの決算発表が注目される。

MLPの分配金動向

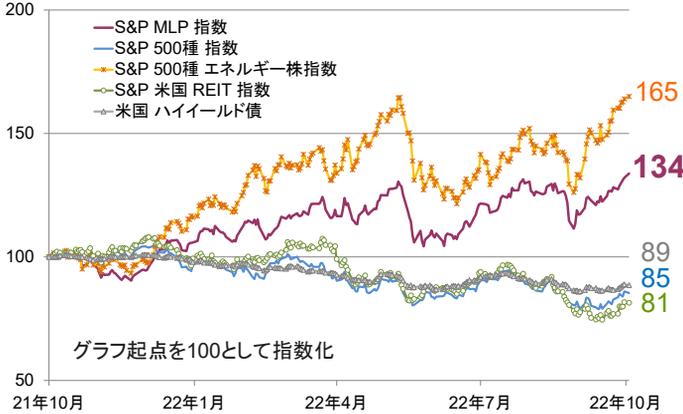
MLP各社は決算発表に先立ち、その期の分配金を発表するのが一般的です。10月から公表が始まっているMLPの2022年7-9月期の分配金は、10月末現在で、指数構成銘柄(26銘柄、2022年9月末時点)のうち、**22社の発表が終了しており、前年比での増配が14社、横ばいが8社、減配は0社**となっています。



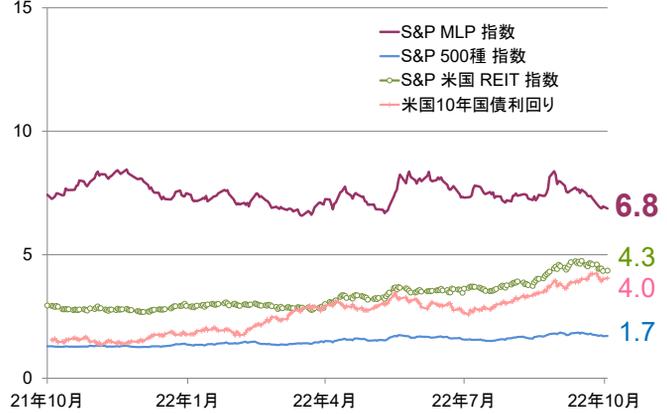
(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)
(2021年10月末～2022年10月末)



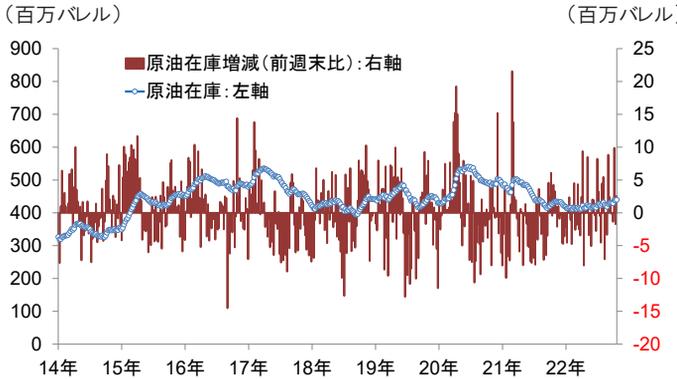
■過去1年の各資産の利回り
(%) (2021年10月末～2022年10月末)



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。
 ※各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

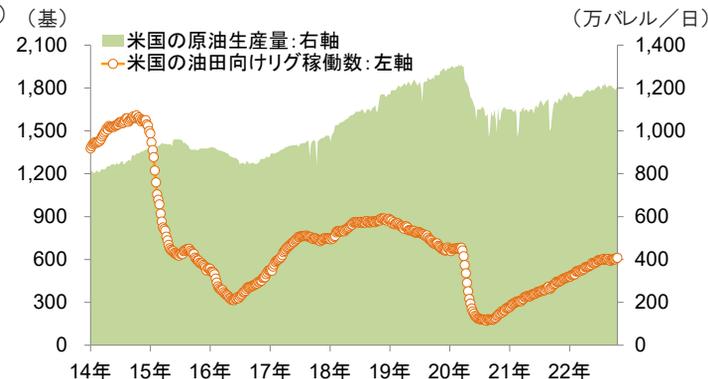
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2022年10月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2022年10月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2022年10月31日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調に振れる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)
 ※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。